法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-05

五音三曲集

能研
2151

五音三曲集

・まれ中樂楽ゝ方の音曲習道ゝ者ゝ
とゝて是ゝ風りゝ次ゝ和ゝ哥ハ和国ゝ風
俗ゝ和ゝ神ゝ感ゝ感ゝ志ゝ一ゝ向ゝ
ゝ詠ゝ哥ゝ也ゝ苦吟ゝ樂ゝ楽ゝ
ゝふゝと音曲ゝ心ゝ知ゝ方ゝ
ゝ為ゝ志ゝ
ゝ詩ゝ古ゝ今ゝ序ゝ和ゝ哥ハ

を根とする也は清濁を以て調子とし
ら後こゝろ見みなの根しりおうりの曲
味わしくそのつとふこゝろふを音曲とハ
てゐ物のつ物くをそうふこゝろ音斗
みて曲はなる物也たれハ西流物道に
入音ハ伝わり祝言也玄蕃寮奏傷
園曲物ゝ物ハ皮肉骨ハ三曲ハ手足を

うつり色ハ傳物ゆ之を和ハ十神
の名同をのせもの〻古ゝとしてを音
連琴の曲味とおせり入音本琴のうら
おさて曲ハ出ハくとしつゝくあ曲
○五音三曲ハ祝言治世安楽音の曲味
詩
るさ海をうらハ琴ハやとしてそ
この志ゝこゝろ世安楽音の字性

を絶ゆる事も無くなりぬれは
代々書遊曲にまて天地神を動かせ
曲なりと云ふたゝ今のみ絹布にも
この深なるはしくも名かや
うるはしき曲に涙をふらせて涙落く
なきことは目に付て一曲ハ海ことを
骨楽をて我性根なり舞姫の袂

云ふ人のわきまへて今年猶
変らもいふ千秋万歳目出度と
いふなるを白雲云

古今序ニ曰
春日野の若菜摘ばや万代を
いはふ心は神ぞしるらん

呂 骨楽 伏見ノ交リ歌
呂の秘久しき神代よりおめてたき
志賀の都のあとありしかたくも如や君

とくさ柱の神あまくたる八洲の國をはらさ
きまつらむ大嘗の明けの
豊明なりや あめつちよりかはらぬ
の神のくすしからぬ都のしく
如意ことのすなをなる代の
守りある大國の代のけさしつかなる
敷島もさかやみえらん

○祝言第二 理世撫民躰

仁徳天皇御詠

此曲は地神喜におきて世をとこしなへにか
民をあはれむ曲翠の趣味なり云云
たかき屋にのほりてみれは煙たつ
民のかまとはにきはひにけり

内侍所

抑宗廟の神として嘉をまもり國家

とうとけ文武ふたつの道ひろくして
法は仏心禅山禅ふもはかりはやはのう
ちに諸仏菩提の本源をきわめやふ
ちやうのみちをもとめ八宗道をあつ
八佛不二の門をつかて三宝をうやう
ふ人の国とり我の国我の人とり我の
人とりて也法の門をつかて

聚こと紀のあさ海さ海ちひをてと
紀人のうの山松原もあり紀敷和
尚の山法の水ようけうはう紀の新をま
ちを少薬山ようもむ月花光もみえの
うちもようはう法うちもうちもや宗
房の紙あるうかよ右の世のもくぬみうを
あるり国とみうもの海ともまもあさ

ふひかの御船は海のなかにとゞまりぬちうち
二羽宮
利益衆生のためには二世安楽の神
法には行きかゝりや青山の松を分
梢も草もうち風のみなされの袖
まりて峯の山おろしそのかゝりまして
さて宮は内寄の秋草もいと神さび
て月の宮まりへの岩清水のわきかへりぬち

かひしのまふわきかへりぬちりいはれ
おく古今人注
或秘説には秘書に野世務氏の神
と内こうしくわりのまゝおけまさる事
とおはねるやうなとゝり
野母事は人会の猿はしよふれふと蒙の事
務民神集を続て清草はあて藪の法山のあり
なりとあるへきなり
○観音第三粒神曲味

此曲ハ松竹の詠をもとゝしてやゝ
宮柱ふとしきたてゝ年ふりたるかゝり有
味有り　古今云
住吉の松を秋風吹からに
声うちそふる沖津白浪
骨味 曲節有
さて揚かや我か神代の昔より御神楽をもつて
此一偈のことわりをもつてしられ候

しかれハ大八洲の国をはしめこの不織
偈ひかりかゝやくひかりのひかりをもつて
日神月神ひるこそさのをの尊
神代のむかしより此偈ハ出現ありて地神
皇孫ハひらく国をおさめ給ふ
神代のかみこのみことおさめ給ふ
りし世ゝをや　ちよをそらしめ給ふ

まして一句ハ千三百六十首縮蔵りかたし
めそうさま子らの此段を往はりえ
の推理とあらわれもそれるいさかい
されはこの少代もやくいまの園となし

秘所

或秘の極書よりきくしきてさやも
せぬてつゝ直くのはらしたりとかり
見へ示之せぬ俳とそなり

○祝言之所躰曲味

杉よ女のいさ所枡よろしかりけりひき
いの緒情の曲譜なり古云
ふけれくそるひみかりかし難波の
萬代の葉をなびけるさてこのこ
波案しこえ
あり縁や名所ハさ波くあく鳴也とも
またさきちのうちさけ多くのさきまちれ出垣

秋の野なれはちくさのはなもさかりな
こと月よりもくもの見えけるを思ふ
まちすら山ひろきめくりのわかれしに
とさりし時もおしむ雲の色ひけしと見え
徐ともみ野やみとりとおもひ草
の山みゆこの都の空くちぬ神代から
残のいつまてきかぬ山のはひめ

の衣かと袖もたゆたふ露か袖そ思ふ
らむ物うしの春てふく霞の
衣のきさらぎのみまれともあま
日わのつけさてまさめりて佐き
めのうらあふやあるまはかふ

或新古今後の書に松の詩をあはたみ
ちよかくのかたきにしかへしといり

○祝言第八長高行曲味

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○八吉三曲第二紙言忠伺紙玄曲味

此曲味紀紙葉[illegible]

かぐらすに
ふかくすみかをかくすかな奥なる窮
て来興はさて海道近隣の西國船
海面に古今云
あまの住はるかにみてしるしなり
あつまさとりうたかの
浪宗
きくふるのさしいる枕秋夜人
月海れる蓬莱庭の春風ふけすき
て月しろふる竹端のまよなれてすさし
引(と)きのふ夜ふかてゆきてゆ秋中を
あはそてしけ海中も思ふの人を待
世中自そうとうてらさるもの
かけのそてのうとみりしまの浦の
夢海ちいもてきも海ちいもて
く寄ふてみえて西風ゆ高

あれ山松はなみならしの秋風吹松の
声のこゝに中まても嵐ハ心をときさ
うれ松ハ世の夢のねふれをとふりさめ
て御しく

或抄ニ秘書ニハこと葉ニすかなる所
らすといへり

○幽玄第二行雲廻雪躰

是ハ花のちるをも心のかゝりある錦
繍の如くなりといへし古云

行雲躰 下りを以曲こそ名人なりけり
詠るき雲のたてそ所しよ

廻雪躰 風吹ハちらすして鳴流れてあり
雪のとね漂よふくのある所

骨染さしなき
山ちいへし秋風二流ハすきつ幸近比妹

かの行ひらの中納言関吹こゆると詠れ
給ふうらの波のよる〳〵はけに音ちかき
あまの家里はなれなる通路の月より
ほかはともなし　けにやうきよのわさなから
ことにつたなきあま小舟のわたり
かねたる夢の世にすむとやいはんうたかたの
しほくみ車よるかたなきあま人の
袖しほりしもはさぬ思ひそくはゝなり
かくはかりへかたく見ゆる世の中にうらやましく
もすむ月の出塩をいさやくまふよ
かけはつかしき我すかたしのひ車を
ひく塩のあとにのこれるたまり水いつ
まてすみはつへき野中の草の
露ならは日影にきえもうすへきに

庭まうりもかゝるあはれなるまいりく
すかたよりゆかしきところもなく
し
[illegible]四位中将業平[illegible]
これはうたのさまはえたれとも歌もさら極く
こゝろのあまりきのはしゆきともなれる
歌り　ありはら業平はその心あまりてこと
はたらすしほめる花の色

なくてにほひのこれるかことし宇治山
のきせんはことはかすかにして秋
の月の雲にかくれたるかことし小野の小町は衣通姫
のなかれなりあはれなるやうにてつよから
すいはゝよき女のなやめるところあるに似たり大伴のくろぬしは薪
をおへる山人の花のかけにやすめるかことし
ほしよりもやゝおとれり人定あはれ和歌の調

此又は節をあらハす千種をうつ吉野
山落節ハみちをうつめるも当(?)のしかれ
たるへかり
或和分稽古ニ節を迫雲ハ幽玄なれ
これ節情に勝て落雲の月と 善
いうられかし花雲の風よりうち扇
思ひしも心消のかよ気のうちへ

ゑとかり
○幽玄第三 見物曲 見物節
節の叶り極まかり耳目をおろ
おすめ曲為景中よふわり古云
下おは京の若山の夕時雨
羽言 清上
わかれや夢のひとりすらん
古のへせうし一二くわゝい千金節よせいさや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小方面御乗

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○ 遠寄雲白祈果

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋代の月花新年の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五音三曲第三 慶募濃祈果

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○慶暮者二羅祈曲味

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

魂乃ゆく末海わたしをよみがへらす
あるやきとそこに古言云
あさちふや神ゝしらすれ秋の夜
忘れぬ夢と吹四風の風
文三男風ふくもの今風火宅の三世
たゝ仏もさき孤つ海ちや梨鼠生と
ちてこゝふ海ちひのうこゝ水の
世のあるれさよいつうちうもん無明のあるれら
海へつくとこゝ火海　一生八風乃前の夢
夢ゝ間よ夢　やゝく三界八苦のうこのあ苦
のまゝ　よさえゝ　ゝ決いゝ五ゝ　ゝ五ゝ　ゝ八有
あゝの明ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
むつの色ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
の花きのついさかゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すりこぶ[illegible]

思ひくらべ[illegible]

小藤太風[illegible]

清水曲[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

以往ひとり言のごとくふるもうふ
聞ふるうり君とけて如之堪能
の達者の聞書古今云
なるもてかすむとて其の霧の
天地の元い根代面如人
道味
端れ方ばかりの事なりの
陽の二神なりもとさいかきあり
ら氏義しきさ紙に仕て面白
風おさまりて今と道あり好文
うらとは世なりやうと字とは世なりや
神風や伊勢の国荒かとふてくら
とふもわとふもの第うとくく
りのとうとは伊勢とみとうとう
の事もこの法へ人とは人とうあ

つきうつせやの日うつせ事を心ひ迎へて

或和尚書に云て云こと有とうきてて

かりうきすもかりうちめうれと

世人ひとりとなるうれはさ俗

よそめていうこうけうきす

ちて世間人のれふしよくれのう

こと業もはうくうて見るうの

ものうる骨と為して結構とすれうう

一切のうさ法とうれとうて法しうす拙思祈

方八中道うこうとうてうてこと迎うう

ウウ　私云はううこと事を思うこ八ふのはき思

ういきくりのとうう出云也拙のいきや

ウうつきはて思ううの仮とうかん

○閑曲第二・若琴林曲味

うけうふううこ八功成君うけて幸来

の位なる人のうちの相撲れん[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八尾の竜はいのうやしきの所のうち
うえいん

八吉三面廿六琴曲之次第畢

一夫三面若座ニ為ちゆう八雙之の世
うしとしてもたのしてたくさんありしき
をちゆう皮肉骨の三面皮八肉ちゆう

うち肉八骨ちゆう骨八八勝ちゆう
ちゆう八勝の六浄八一水ちゆう一水の右前
一会の是字ちゆう字八行ちゆう字
十二
八行をふの得ちゆうしゆふの故の音楽の
智ちゆうとちゆうて所修見行琴仏
者をとちゆう菩提の物者ちゆうしゆう
の種骨肉をちゆうすいちゆふ皮を似せちゆう

[illegible]
骨と云て肉のあつ[illegible]肉と和して皮
[illegible]
皮のあつ[illegible]種と云ハ[illegible]道と云
ハ骨力[illegible]
肉[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一呂律中曲　呂ハ物うやうなる曲なり
律ハ利こめげなるなるの曲
内ゑ中曲ハ二海ゑ中ちてこまるなる
急曲骨ゑ人ハ呂律中曲ハ唱琴
りこまるなる事ゑ人ゑこまるよ
りわるもうの儀也但ちゑ人ゑ内
骨の在所ゑ人ハ地音曲の
中ハ物ゑ三曲ゑ人ゑ節の一句ふ
ゑ曲節ゑ人ゑ人ゑ三曲の性根
かんゑ人ハ呂ハ物ゑ人ハ音ハ
一ゑ人ゑ大事ゑ人ハ音曲ゑ人ハ
ゑ人ゑ音曲ハ具ゑ人ゑ具ハ勝ゑ人
それゑ音風の根源ハ三曲ゑ人ゑ
物ゑ中ハ大事ゑ人ゑ物ゑ人ハ

新古今序云ひとりふるこゝろとなげくあしたの涙とゝのり
東方の二面もまた降のこゝろかきかはし
ものいはぬ鳥と云事こゝろあるかたもあり
とつもえいふこゝろ葉ものがたりに記
の種地よりつのれて物の名のいろ
若無不二相応一相
一節に事甘節曲節力節流節
懸節上一節下節自字秋折節
自字秋折節拾節命節釣金節
甘節といふこゝろ
秋のもの
月
この節甘の節なりまつと大事なり云

てゝとゝさくと名せすして
月もしらてきこの物を
あるとしてとゝ名付けるこの一の故
実なり　曲節ハこゝとよ　こゝなり
ゝてゝ　ゝもゝくすと云中曲こゝ
所とゝきこゝ　ゝゝ
節　ゝゝ

ゝゝ力節ゝゝゝゝゝゝ
文字とのゝゝゝゝゝ
きゝてゝゝゝゝ力節ゝゝ
力節ハ下ものゝゝゝ柳の
歌葉の
ゝ流節ゝゝゝゝ
ゝゝて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やうの節と付けとなりて[illegible]
[illegible]の節のもとをなす
[illegible]ふしを作る幽玄曲の題号なり
[illegible]曲のすがたをすべて
幽玄と上果なるをおもうべし風姿と
し節をふるくしてしかも
[illegible]を知るべし

節は用のもとなるべし[illegible]
[illegible]中曲は服と
曲[illegible]
の[illegible]のもとなり書曲のもと
[illegible]

古今

[illegible]

[illegible]

一 文字に事のめでたき字・魚字・[illegible]
[illegible]字のみすし字也字と
いはれしれて稙子のおもてとうと文
字一めすめハ稙子おわりて曲蔵とうと
[illegible]
[illegible]

ことにおれハうしろにて稙子のあとの
せうれのうへ大よりハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

長曲のことばとりかへてうたをうたふる
をこの稽古に長曲のうたふやうにすべし
字あり上字ふて長とうすべきなり
又あるいは長をうたふ時長に
あるいは息をうたふ
あるいは息をうたふ
のえとうたふ
息
息
息

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆるすべきなり

一 曲の事 短曲のいとなれば多くは
なり 先ずあるべきなり 短曲無道

の 藝人 なれば 曲の大きさ 色 を 考 す
和 給 ふ こと 曲 なりとて 曲 を 忘れぬ
なり いとのこと 曲の一節 くみて 知 べし
出 字 と は 出 曲 なれば 一節 の 中 あるべし
新 の 字 と は 入 曲 なれば 出 字 の 入
曲 の 用 ゆ べ し 短 曲 なれば 曲
余 十 り 短 曲 な り 一 節 と き り て 後 節 な

うりとうるゆをハきりかけてつきをハ
きるぬれもあり今をしきる祝もい
ぬとめすらてうすくなれもあり呂
律呂とハうるへしもはゆる調子をふ
くみてきるかしら呂のひいきすい
もの皇なりへし調子とかるしハ律の皇
也文字いかさしかる字とハいかるかこひもの

なり文字うかるとうるゆれて文字ハ
もかくへいのうみてしいるかそいと
しかるの祝さきを調子をてかるはゆる
ふりの律の皇よりあさこうるもきれなれ
はゆるかかるて国ものうるもしこう
宮商角徴羽の琴の位高下なきうる
きうる程よりハ玉ものきこハ玉ものこう今を

妹

こゝすして字しらを出墨のふきこぼ
うとゝの位なりて下ゝはいつれの所也
風波の雅とゝるすけ墨ーかりとすり
しゝるみなりうゝを字みて入墨をし
ゝ入てー文字みていきをつゝいすす
ゝ夕のこゝれをみてはうゝて出字の位を
いきを字ゝゝをしゝるゝへしく

ゝ位はゝ似ゝれはゝれかゝゝゝ也

一稽古ゝ事ゝ毛ゝ筆のゝゝゝ家ゝゝ
ゝゝものゝゝかゝく稽古ゝ毛ゝゝものゝゝれ
ゝゝ海ゝゝ海ゝ事ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
はいかい師一座くの面を考へるがゆゑ
ふ〳〵しかりさはらんごとくわりて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

別同心の曲折ふせ八ハ[illegible]
指子八指子なり七指子空あ八の指子
空り此こゝ[illegible]七指子こゝ[illegible]
八の指子なり[illegible]
海ゝ本指子の空此八小指子[illegible]八大指
此八二指子此八三指子と名目すあ八
の指子ここ八ゝ[illegible]指子[illegible]此八

空指子とよび八指子ここの小指子の名目
記[illegible]ゝ指子なゝ八曲指子[illegible]指
の曲折曲[illegible]曲大数[illegible]
[illegible]指子[illegible]
[illegible]指子別[illegible]指子八[illegible]破急[illegible]
[illegible]破八三[illegible]急八一[illegible]
[illegible]破の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一琴の題の事　是は横竪とも云ふ心
を竪のように竪のように毎度横竪
ふ[illegible]　律とは竪のように長とは横のように

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一二字一曲の秘傳あり是は[illegible]なり[illegible]曲
南流よりおこりてとりもちこれなり大
るこの字を一曲よりふとりなり其節
に似たりとも其節は異なり[illegible]節
なり是は[illegible]なりなれてあるの節
[illegible]人の[illegible]なり[illegible]
[illegible]

[illegible]
にして秘[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 五味智ありし事 薬方に付ての本意

人の五味の好味ありふるきとこのむ所あり
ありかくことこのむ所ありあるいとこれ
むかりなりて志ばしくの好物の味ありの
ありしかの味と云りの本来一味にして
つと味文しきこと四味あらかり
こうらふ志こうして五味と名ふ事れて

加口

本来薬のあり方いとう知薬方と色
一味と言すとこうあれ小さらふとの
ありの者ありの因つ形しつ次水なるとう
と薬味深味よりて言せすして法
人のつよう形ふ言りとかのと人のこと
りて文味と海うう事本水の
ふかりいうふあれて文味と形と事

こゝろ海のまことふて風をおぼへしさる
程なく言せすして富士に感味を於
のり奇代の風味音曲の御味もなのすす
るに言せされ水のおもふをもてふこ
うり死の解味ともなる一水の徳をなる
所事なし水はうつ地をなりて二力圓
のこゝろをおすの味のあらはをなす

人のこゝろ形の形をなりて行味の感を
於さし事をもつてあらはすし一水を
もて度圓骨の三曲とおられ心の大地を
北弟の本一力地ゆゑ水行をり変ゑ六
輪一変と云ひ道の一巻を作る是を
水輪の形をり一変はすれも一変の
効利 鈴物骨心死去こゝ三曲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の位のかりなれハ諸味一ようと
なる則流通自在なれハ市場に横
溢し好きさふ人よりあらハ
して喜ぶの名味をうつわり
元文諸味一水とうはこと
一代乃三年末の祝儀也して四方都
市に於て果のかりハうふから
かるへきなれとも遠者よりうれし
俗をうすれはしす急なる祝
物して商曲のなるあり中なる人也
祝物もあらうるに於て位ありて
まわり因ふ所上代唐物の絵
のうつふしすてる唐紙数一ぬれ
ともうらうあさてもわるさ雨の日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小さき子供のうれしがる事ハ人の家縁と
なる事なれハ人しれぬ園の内の面
のかをりを尋ねし吉田ふし清曲習曲
代わるがわる

一祖母の事百事かたらるるを
うるしやうしらすハちいさき
天地未分かぶ内の開闢ハしやうし

なり高しかたりおうる所なれハ
人の内よりしやうしあり拍子のうる
かたある事とうれいの事と所れ
ようあるとうのあるう面白きあ
るれハしかるよ性あるハしあるとも
為るとしられ正直と性うり慈悲
をへうり天地と父母とする内を活泰

平等の一方道といふおきまを為し又
習ふ道の仏に示仏の二方の様よりそこう
て法をとくを聞きうて人よりと人
とすれのみよ似ねて示へき事真
似一行の法ろうへし

此一帖六波羅蜜の奥義極し

中しし極也此の心者事常
住ふ様し妙乱を一切万年
移り平者成へし一極し

金言行異示指

長禄六年十月十日

ハンテンクラブ

金春八郎

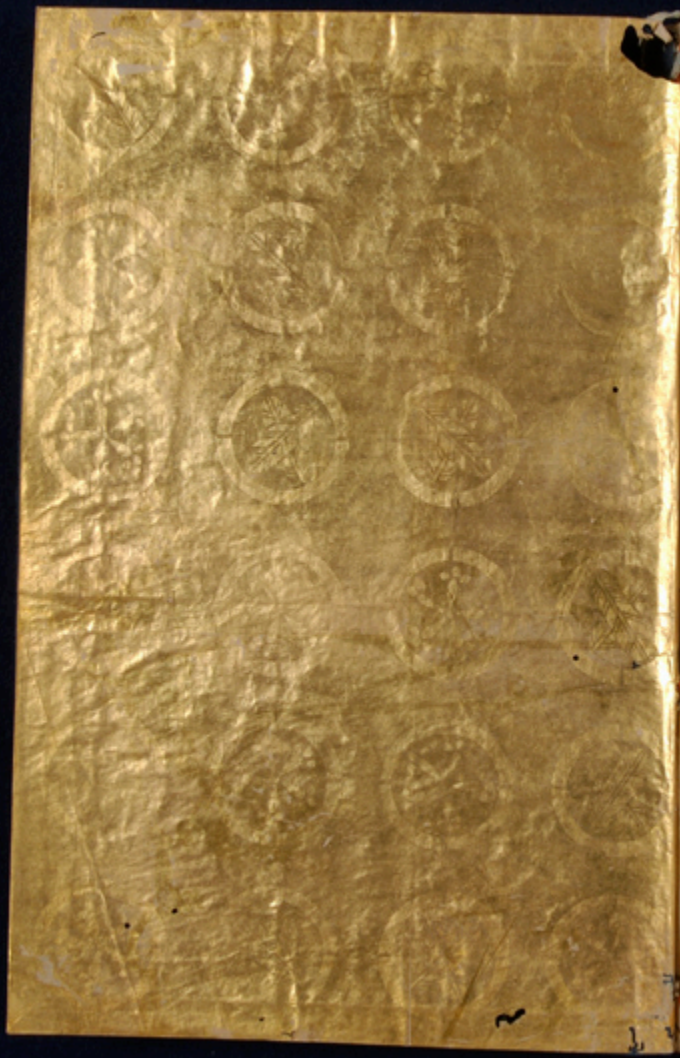
秦安

金春家所出於秦河勝歴代
秘曲傳家督一人而其他庶子
儒孫遂不能窺閫奥於萬
一矣雖然如是兄七郎氏勝
不幸早世故老父家傳之秘

奥相續而欲傳之子々孫々而
以號萬世惡家傳秘曲教授
於我所今相傳也今又汝家傳
秘曲不遺所今教授也莫令
斷絶矣

四暦二年　丙申

三月五日



八・七
能研
2/E1